

第4章

事業別の施策の方向性

～更新等に当たっての基本的な考え方～

1 展示事業

(1) 事業展開の方向性

展示事業は、展示物を用いて科学や科学技術に関する知識の基礎となる科学原理や法則を分かりやすく伝えるものです。

科学原理や法則を理解するためのきっかけづくりとして、展示物に遊戯性を持たせるほか、身近な暮らしと関連付けたテーマ展示にするなど、様々な視点から利用者の興味・関心を高められるような魅力ある展示空間を目指します。

(2) 展開事例案

ア 普遍的な原理・法則を学ぶ展示の充実

触れて重さや振動を感じるなど、五感を使って物理の普遍的な原理・法則を学ぶことができる展示の充実を目指します。

イ 展示分野の再整理

展示については、展示テーマがわかりやすいように展示分野等を明確にし、札幌の特長を踏まえた地域に根ざした科学館を目指します。

2階展示分野（例）



ウ 身近な暮らしと科学の関わりの紹介

暮らし（電化製品等）をテーマに、科学を身近に感じる機会の提供を目指します。

エ 自然災害や環境問題に対する学びの充実

自然災害や環境問題など地球全体で起きている問題と北海道・札幌の地域性とを関連付けながら、過去と現在を理解し、地球の未来を考える課題解決に向けた学習ができるような機会の提供を目指します。

オ 運動（スポーツ）に関する展示の充実

身体の仕組み等について、実際に動いてみるなどの運動体験を通して学べる展示や、北海道・札幌らしいウィンタースポーツと科学の関係性についての理解を深める展示の充実を目指します。

カ 遊戯性を取り入れた展示の充実

友達、親子で競い合うことができるなど、ゲームやクイズなどの要素を盛り込むことで科学への興味・関心を高め、何度でも来館したくなる展示の充実を目指します。

キ 解説の充実

好奇心や学習意欲を高められるよう、ボランティアによる解説など、多様な解説方法を取り入れ、展示物が示す科学原理や法則を分かりやすく伝える取組の充実を目指します。

2 科学普及啓発事業

(1) 事業展開の方向性

科学普及啓発事業は、実験やイベントを通して、科学や先端技術に関する知識を広く市民に普及啓発するものです。

科学館で行われるイベントへの参加促進を図るためには、市民ニーズや時代の流れを踏まえた内容とすることが重要です。

そのためには、企業・大学等との連携強化を図ることで、最新の科学や科学技術の情報を発信するなど、様々な事業を通して科学の普及啓発を図ります。

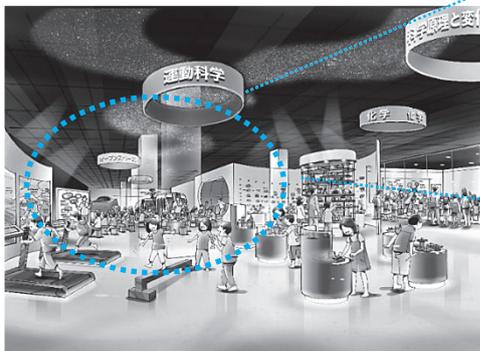
(2) 展開事例案

ア 企業・大学等と連携した情報発信の場の充実

常設展示室内にオープンスペースや展示ブース（企業用）を設け、企業や大学等の利用を促し、最新技術や企業等の研究成果を発信する場の充実を目指します。

特に、札幌（北海道）で進められている研究内容等を取り入れるなど地域に根ざした取組の充実も目指します。

オープンスペース等の活用



【大学等による講演】



【企業展示設置ブース】



【休憩コーナー】

【写真提供】福岡市科学館

イ 施設設備の利便性の向上

実験室では、プログラミング講座等のソフト事業の拡充とともに、講座等に参加していない他の利用者也活動の様子を見ることができるよう施設づくりを目指します。

特別展示室では、多様な利用を想定した施設づくりを目指します。

サイエンスホールの空間の大きさを生かして、大規模な実験や科学に関する講演を効果的に実施できるよう、サイエンスホールの機能の充実を目指します。

ウ 多くの市民が利用しやすい環境づくり

乳幼児を連れての方のための休憩室（授乳室）の拡充や、障がいのある方・高齢の方のための更なるバリアフリー化の充実など、誰もが利用しやすい科学館を目指します。

3 天文普及事業

(1) 事業展開の方向性

天文普及事業では、プラネタリウムや札幌市天文台を活用し、市民に身近な星空を紹介することで、科学に親しむきっかけを提供します。

リニューアルされたプラネタリウムでは、星空だけでなく様々な映像を高画質で映し出すことができます。また、札幌市天文台や移動天文車等を活用した地域での天体観望は、実際の星空を見上げながら星空解説を聞くことができることから、人気の高い事業です。

今後は、プラネタリウムの更なる活用や地域での天文事業などを通して、天文に関する市民の興味・関心を高める取組の充実を目指します。

(2) 展開事例案

ア プラネタリウムの多様な活用

360度ドームシアターを活用した天文にちなんだコンサートや講演会などを企画し、新しい利用者の確保に向けた取組の充実を目指します。

イ 札幌市天文台・移動天文車等を活用した地域での事業展開

交通利便性に優れた都心にある札幌市天文台の更なる活用や、珍しい天文現象を身近な地域で観望できる機会を通じて、市民が科学に親しむきっかけづくりを推進します。

また、市民が身近な地域で星空に触れる機会を継続的に提供するため、町内会や子ども会など地域の団体の要望に応える移動天文車などの活用の拡充を目指します。

ウ プラネタリウムと札幌市天文台・移動天文車等の連動した取組の充実

プラネタリウムと札幌市天文台や移動天文車等が、それぞれの特徴を生かしつつ相互に連動し、それぞれの施設での学びをより深められるような取組の充実を目指します。

4 学校教育連携事業

(1) 事業展開の方向性

学校教育連携事業は、科学館の施設設備を活用して児童生徒に学ぶ機会を提供するものです。

今後は、科学館の学習環境や理科と関連付けた展示物の充実等を図り、授業での活用を促すとともに、学校では体験できない科学館ならではの学習の機会を提供できるような事業を展開し、これまで以上に学習効果を高めることを目指します。

(2) 展開事例案

ア プラネタリウム番組の充実

「雪・氷」や「火山と地震」などをテーマとし、北海道や札幌の地域性を生かした番組の充実を目指します。

イ 展示機能の充実

児童生徒が自ら操作し実験できる学習効果の高い展示を充実するとともに、展示物周辺に学級単位で考察や検証が行える場を設けるなどの環境の充実を目指します。

ウ サイエンスホールの機能の充実

空間の大きさを生かした大規模な実験等、よりダイナミックな実験に対応できるようサイエンスホールの機能の充実を目指します。

エ 実験室の機能の充実

学級や学年単位で実験できるよう、実験室の増床や実験器具の拡充などにより実験室の機能の充実を目指します。

オ 貸出用実験・実習セット等の充実

来館することが困難な学校に対する授業支援を図るため、貸出用実験・実習セット等の充実を目指します。

カ 解説や調べ学習のための機能の充実

児童生徒が自ら学びを深められるよう、調べ学習に活用できる科学に関する図書やICT環境などの充実を目指します。